

平成29・30年度 大島地区研究協力校「学力向上」

龍郷町立赤徳小中学校 研究公開

自分の考えを伝え合い「分かる」喜びを味わえる子どもを育てる学習指導の研究

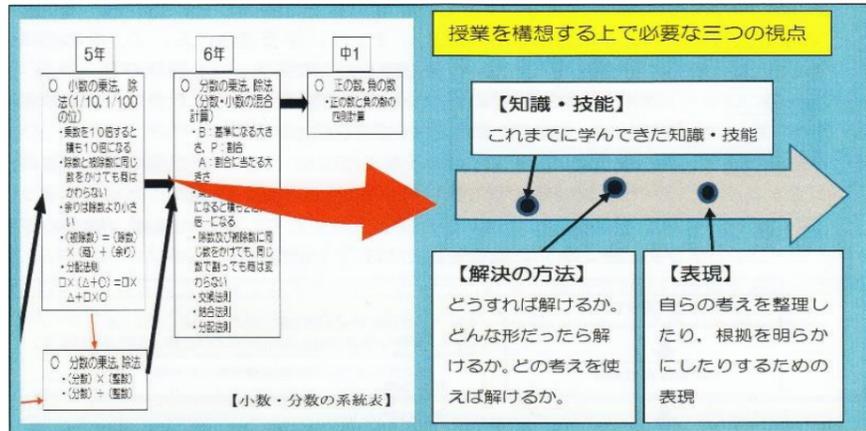
本校では「分かる」を、計算の意味や仕方だけでなく、どのように解決したかといった解決の方法も含めている。そして、解決する(した)過程で味わえる達成感や価値を感じることを「喜び」と捉え、喜びを味わうことで子どもたちの中に「どのように学んだか」を残すことにつながっていくと考える。このような子どもの「分かる」姿を目指して、次の二つの柱で研究・実践を行った。

I 研究の柱、研究の実際

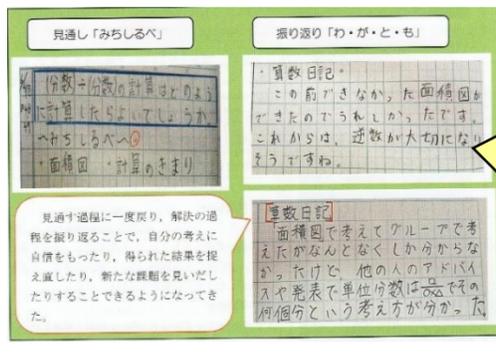
研究の柱1 系統性を踏まえた教材研究

【系統と知識・理解についての検討】

小学校から9年間の学びの過程について、学習指導要領や各学年の指導計画を基に、系統表にまとめ、既習事項を踏まえた授業づくりの分析資料とした。また、子どもたちには「学びのつながり」として掲示して既習の学びを想起できるようにした。



【全職員による教材研究の様子と「学びのつながり」の掲示】



【学びの過程を振り返り、次の学びにつなげる活動の工夫】

次の学びにつなげるためには、振り返りが大切であると考え、2回の振り返りを行うこととした。

- ①「みちしるべ」解決の方法を見直す過程でのこれまでの学びの振り返り
- ②「わ・が・と・も」まとめる過程での解決の過程の振り返り

<わ・が・と・も>の観点

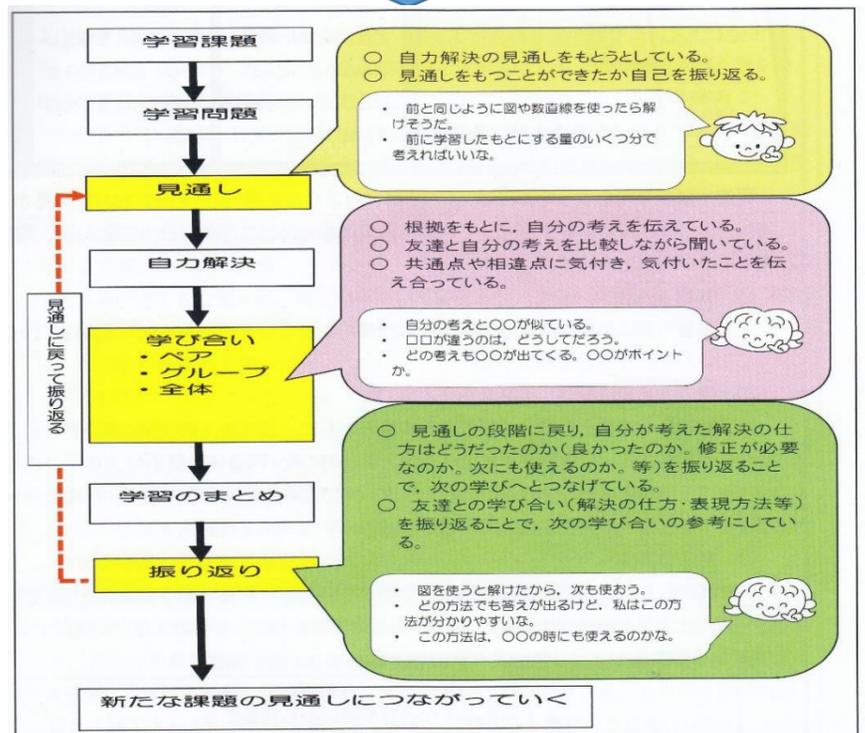
わ…分かったこと が…がんばったこと

と…ともだちのよかったこと

も…もっと(がんばりたい・知りたい・生かせそうな)こと

研究の柱2 三つの活動の重点による数学的活動の充実

<3つの活動の重点> ①見直し ②学び合い ③振り返り



II 研究授業及び分科会の様子



グループによる学び合い～考えを伝え合う



全体での学び合い～考えを比較・関連付けする



ワークショップ型授業研究～成果・課題を検証



みちしるべ～既習内容を想起させ、解決の方法の見直しをもたせる



ペアでの学び合い～考えを整理し、根拠を明らかにする

参加者からの意見や感想

- 「みちしるべ」を基にそれぞれが自力解決を目指す姿勢、「わがとも」で他の考えに気付く子どもがいて、良い取組だと思った。
- これまでの研究成果を子どもたちの姿から感じることができた。また、視点に対してのアプローチ等が参考になった。
- 子どもたちが全体的に「主体的な学び」「対話的な学び」について非常に秀でていたと感じた。特に学び合いの習慣が定着していて、ここまでの定着のためにどのような工夫をされているのか知りたいと思った。
- 学校の取組を生かした公開授業であり、その有効性を感じることができた。特に、振り返りの視点「わがとも」は、自己肯定感を高めることにつながるもので、参考になった。

